

LPガスCP速報(2019年11月積)

1. 11月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **430** ^{ドル} (前月比+10^{ドル})

ブタン **445** ^{ドル} (前月比+10^{ドル})

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が方向感に欠けるなか、前半、プロパンは米国産の供給が潤沢で上値は重い展開、ブタンは中国、インド、インドネシアの需要でタイト化し市況を下支えしたが、インド、インドネシアの需要が一服しブタンプレミアムは縮小する結果となった。CP先物は第2週に急騰、極東CFR市況は第3週にプロパン460^{ドル}、ブタン510^{ドル}に達したが、週明け以降はプロパン440~450^{ドル}、ブタン480~490^{ドル}どころで推移した。

全米プロパン在庫は、輸出が増加したものの、需要は穀物乾燥用が低迷、好調な生産で在庫は25日時点で前年同期を20%上回り過去5年平均の上部(グラフ②)。米モンベルビュープロパンスポット価格は、原油市況に追随も在庫が減少に転じ前月比5^{ドル}上げの240^{ドル}(グラフ①)。

フレート市況はサウジの出荷遅延及び供給不安、インド等需要、台風の影響などで急騰一時81^{ドル}まで上昇したが反落、ただ、余剰船舶減少で高止まりか。

ナフサは先月のサウジ石油施設攻撃を受け上昇、月間平均は515^{ドル}、前月比20^{ドル}の上昇。

バンカーオイルは、IMO対策もありC重油は急落、月間平均で前月比93^{ドル}安の375^{ドル}どころとなったが、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は4^{ドル}下げの590^{ドル}どころ、C重油との格差は前月の126^{ドル}から215^{ドル}に広がった(なお、4~10月平均の格差は180^{ドル})。

11月CPは前年同月比プロパン110^{ドル}、ブタン80^{ドル}それぞれ安い。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算では、前月に比べプロパン、ブタン3ポイントそれぞれ上昇、前年同月比ではプロパン3ポイント、ブタン8ポイントそれぞれ高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	75.6	81.1	74.0	71.6	75.6
CP先物指標:P	405	430	420	425	420
CP先物指標:B	420	445	440	440	436

② 原油市況等

WTI市況の推移をみると、10月前半は世界経済指標が低調で52^{ドル}台で推移した。11日にはイランタンカーが紅海ジッダ沖で攻撃を受け中東リスクが再燃し54.7^{ドル}まで反騰したが、週明けIMFの世界経済見通しを引き下げたほか、中国の経済指標悪化でエネルギー需要減退懸念が強く反落した。下旬には米中通商協議の「第1段」合意期待やOPECプラスの12月会合での協調減産拡大示唆を受け4営業日続伸したものの、週明けは世界景気減速による需要下振れ懸念や米原油在庫の増加、米中通商協議合意文書署名予定であったAPECが中止となるなど3日続落となった。先月のサウジ石油施設攻撃同様、突発的な中東地政学リスクは材料視されるも長続きせず、世界政治経済動向、エネルギー需給のウェイトが高まっているようだが、金融商品化している原油市況が、狭いレンジで推移する状況が不気味?

一方、米国内原油生産量は1,260万b/dの過去最高を更新、製油所定修が一巡し稼働率が上昇してきたが低水準、原油在庫は増加し対前年同期比103.0%で供給過剰感の解消には至っていない。原油輸出は300万b/d超の高水準が続いたのに対し輸入量は減少、3週連続で原油・石油製品ネットで輸出国となった。米石油リグ稼働数は減少、直近で前年同期を179基下回る696基となり2017年4月以来の水準、原油市況を下支え。CFTC発表の大口投機玉の買越残高は22日時点では366千枚に減少、買建玉は549千枚に増加したが売建玉も183千枚に増加、総取組高は16日に205万枚で前月末から減少。

○10月積みアラビアン・ライト(10月1~30日の想定)は62.0^{ドル}(前月比-1.2^{ドル})

熱量等価AL100% プロパン508.34^{ドル/ト} ブタン501.36^{ドル/ト}

AL比 プロパン84.59% ブタン88.76%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

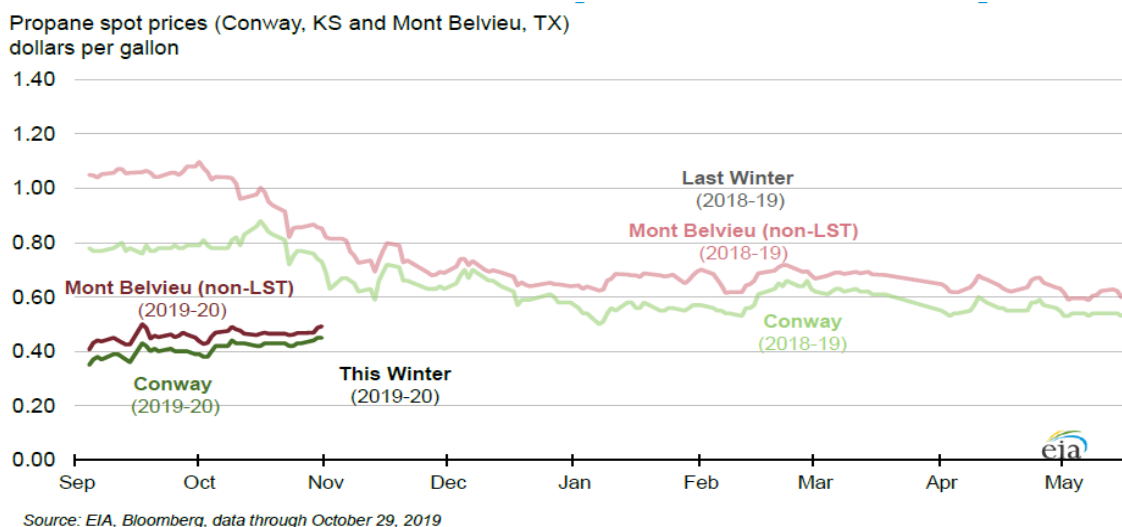
2. 2019年11月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	T T S	P円建CP	B円建CP	MB合成P	P前月比	B前月比	合成P前月比
①20日締め	108.75	53,200	54,900	51,500	+5,700	+6,000	+4,900
②末日締め	109.15	46,400	48,000	43,700	+4,600	+4,900	+3,400

* T T S平均について、①が9月21日～10月20日、②10月1～31日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①がCP75%、MB25%、②がCP70%、MB30%で算定。①は中東・北米フレートを含むCFRコストを②はFOB（北米経費込み）コストを表示。

なお、上記MBは10月28日までの価格を基にE I Nで試算（239ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

①米国プロパンスポット価格推移



②全米プロパン在庫

